

第243回触媒化学研究センター談話会

演題：クリーンエネルギー社会
- 近づく石油時代の終焉 -

講演者：吉田 邦夫 教授
(東京大学 名誉教授)
(財団法人 総合工学振興会理事長)

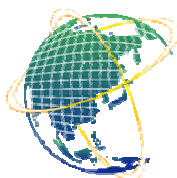
日時：2008年9月2日(火)
11:00 - 12:30

会場：北海道大学創成科学研究棟
5階 大会議室

要旨：ニクソン大統領は1973年「アメリカの人口は世界人口の僅か7%を占めるのみである。その我々が世界のエネルギーの30%を使用している。これは悪いことではなく良いことだ。我々は世界で最も豊かで、最も強い国民であり、世界最高の生活水準を誇る。だからこそ、大量のエネルギーが必要であり、常にそうありたいものだ。」と述べた。ここに引用した事実は今も変わらず続いている。その上に、はるかに巨大な人口を抱える中国やインドが同じことを目指している。

エネルギーの歴史は成長 重圧 ブレークポイント(エネルギーの劇的変化) 再調整の流れを繰り返してきた。現代はブレークポイントを目前にした重圧の時代である。どう対処すべきか皆で考えたい。

《連絡先》 北大触媒化学研究センター 分子触媒化学研究部門



**Catalysis &
Materials Science**
Hokkaido University GCDE Program, 2007-2011

高橋 保 (TEL: 011-706-9149)